

## 「未来への架け橋」の思いを込めて「つながり」を意識した実践

周南市立桜木小学校 校長 歌田 聡

(平成 15 年度派遣 中華人民共和国 上海日本人学校)

### 1. はじめに

平成 15 年 1 月中旬、在外教育施設（上海日本人学校）への即派遣（平成 15 年 4 月派遣）を打診された。当時は 1 年間研修を受けて、在外教育施設への派遣となるケースが多い中、突然の話に驚きを隠せなかった。また、その頃の世界情勢は、新型肺炎（SARS）が北京、香港など中国各地や台湾、シンガポールなどで大流行し、世界保健機構（WHO）は各地域への渡航延期勧告を出した。幸い、5 月に入って感染症は減少し、6 月に事実上の終息宣言が出されたが、プライベートでは第 3 子が派遣前 3 月末に誕生するという状況で、即派遣の依頼には少々悩んだが、折角いただいた機会であることから即派遣の決断をした。

派遣期間中の日中関係情勢は決して芳しい状態ではなく、そうした国際情勢を含め、中国の歴史・文化を学び、肌で感じ、学校教育活動はもとより私生活でもかけがえのない宝物を得ることができた。約 20 年前のことではあるが、こうした貴重な 3 年間の足跡を振り返り、帰国後にどのように生かしてきたか、また、今後の学校経営及び学校教育活動等に生かしていきたいかを考えてみた。

### 2. 当時の上海日本人学校

SJS（上海日本人学校の略）は、中国の経済発展に伴い、日本の企業進出が著しく SJS の児童生徒数は赴任当時、約 1,200 名であり、校舎の増築に伴い、中学部 1 年はプレハブ校舎、1 年後には中学部は新校舎（小学部隣接）に移った。しかし、さらに 1 年後は 2,000 名を超え、当時校舎のあった虹橋校（小学部・中学部併設）とは別に、私が帰国した平成 18 年 4 月から浦東校（一部小学部・中学部併設）が開校し、虹橋校は小学部だけとなった。

赴任した平成 15 年度は、「いつもここにこ一生懸命」を学校スローガンに、小学部各学年 8～9 クラス、中学部各学年 3～4 クラスの大規模校であった。

### 3. 「つながり」を意識した実践

#### (1) 小中学校併設の環境を生かした取組

##### ①算数の授業をとおして

私は中学校数学科教員で、小学部との併設という環境を生かして、小学部に何度か算数を教えに行ったり、中学部の生徒が小学部低学年に算数を教えたりする機会を設けた。自分としては、9 年間を見通した算数・数学科の系統的な学びを研修することができた。また、生徒たちは算数を教えることで小学部との交流だけでなく、どのような教え方をすればよいかを考え、準備し、実行し、その後振り返ることで自分た



算数の様子の「学級便り」

ちの力を見つめ直すことにつながった。生徒たちからは「教えることがこんなに難しいとは思わなかった」などという感想があった。

### 小学部2年の算数の先生になろう！

～小学部の2年生に算数を教えに行きました～  
小学部と中学部の算数・数学合同授業を20日（月）に行いました。

昨年度から少しずつ考えはじめていましたこの企画！もし、中学部3年生を担当したら、ぜひ実現してみたいと・・・小学部2年の先生方のご理解とご協力を得て、一昨日、「日本人学校ならでは」の授業を開催することができました。くしくも、3年2組は日程的に1番になりました。ドキドキワクワクしながら・・・の授業。私は、課題提示、準備・計画段階でアドバイスをする程度で、実際は生徒達が考え、判断して授業を行いました。

小学部2年7組、8組、9組の児童に「3つの数の足し算を教えること」と「くふうした計算方法（結合法則）に気づかせること」そしてできれば結合法則や交換法則を使いこなせるようにすることが課題でした。

加法の結合法則  $(a+b)+c=a+(b+c)$   
加法の交換法則  $a+b+c=a+c+b$  など

上記のことは、すでに中1で学習済みですが、これを気づかせる授業ってどうすればいいの？ということ、生徒達は準備・計画段階から真剣そのものでいます。準備・計画時間は選択数学1時間+αと限られています。その中で、2人、3人組でアイデアを出し合っていました。

「先生、こんな教え方で、2年生わかってくれるかな？」

「2年生が興味を持っているもの何ですか？」

「計算ができれば、ご褒美にカードをあげよう」

家で準備してきた班、模範授業をした上で本番を迎える念の入りようの班もありました。その一生懸命さに担当としても、この夢の授業を企画してよかったなあ～と思いました。

小学部2年の児童の皆さんも一生懸命、授業に取り組んでいて、感心させられました。



#### 2組の生徒達が考えたアイデアの数々

- ・ブロックを使って説明した。
- ・最後に「がんばった」人にあげようということで手作りメダルを準備した。
- ・数え棒と数字カードを使って説明した。
- ・シールカードをつかって、できたら貼ってあげられるようにした。
- ・お金を使って、現実的な学習を！
- ・3つの数の足し算を並べかえながら、どの計算が一番速くできるか、考えてもらった（気づいてもらった）
- ・お金を使って、十の位と一の位で分けて計算の仕方を説明した。
- ・巨大タイルを使って説明した。
- ・トランプを使って、10のかたまりをつくるゲームをした。
- ・小黒板が威力を発揮した。
- ・身近な消しゴムと鉛筆で説明した。
- ・食べ物イラストを描いて、興味を引いた。



△さあお兄ちゃん・お姉ちゃん先生の説明、わかるかなあ？

中学生が小学生に算数を教える様子の「学級便り」

#### ②小中合同大運動会の実践

2,000名を超える小中合同の大運動会の開催は、今なお鮮明に覚えている。上海市内の陸上競技場を借りて、学年の徒競走では2カ所で同時にスタート、演技の入退場の時間を削って、ある学年の演技が終われば、違うスペースで別の学年の演技が始まるという流れであった。その分、教員から保護者には、徒競走の順番や走路位置、演技種目では誰がどの位置で演技するかなど、事前に保護者への情報提供に細心の注意を払った。紅白に分かれ、1,000名規模の応援合戦は、ものすごい迫力であった。それを中学部のリーダーが仕切って練習等を行ったので、リーダーの生徒にとっては、かけがえのない経験となったに違いない。

## (2) 上海日本人学校の生徒のニーズに寄り添う

### ①部活動への憧れ

中学部の生徒たちは、日本の中学校や高等学校に対する部活動の憧れがかなり強かった。S J Sでは、安全面等の配慮から登下校は決められたスクールバスあるいは保護者の送迎で、中学部の下校時刻は15時～15時40分だったため、部活動は全くなかった。好きなスポーツや芸術・文化を「思いっきりやってみたい!」という中学部生徒の思いを汲み取り、2年目からクラブ活動として週に1回ではあるが実施した。このクラブ活動の種目は、生徒のアンケートをもとに決め、小学部の先生方にもサポートに入ってもらい、できるだけ生徒の思いを実現できるようにした。私は、水泳部と基礎体力作り部を担当し、週に1時間ではあるが思いっきり身体を動かさせ、スポーツの楽しさを味わわせた。

### ②高校進学に向けて

S J Sの約8割の生徒は、日本の高校を受験する。すなわち、高校受験を機に日本に帰国する家庭が多い。3年間のほとんどを中国で生活しており、高校生活をはじめ日本での生活に不安を抱く生徒が多かったため、日本の生活について、生徒たちと話をする機会を多くもった。

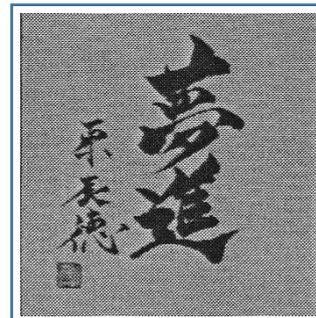
## 4. 夢の希望を抱かせる教育活動

### (1) 著名人との関わり

#### ①元読売巨人軍監督 原辰徳氏の講演

平成17年6月、S J Sに原辰徳氏を迎えて、講演会を開いた。小中学生は原選手の現役時代の活躍を知らないが、保護者の方々にはたいへん好評であった。私は、その講演会で司会を務めさせていただき、とても貴重な経験となった。

原氏から夢を抱き、その夢の実現に向けて突き進んでほしいという意味にちなんで、「夢進(むしん)」という言葉プレゼントしていただいた。



原辰徳氏 直筆の色紙

#### ②アテネオリンピック女子マラソン金メダリスト 野口みずき選手との交流会

野口選手とは、実際に児童生徒と身体を動かしたり、走ったりするなど一緒に汗を流した。また、走り方の基本やストレッチの重要性、体幹を鍛えることなどの話をされた。最後に、金メダルを見せてもらい、児童生徒から「すごい!」という歓声が上がったことを覚えている。

#### ③ミュンヘンオリンピック男子100m平泳ぎ金メダリスト 田口信教氏の講演

1972年、ミュンヘンオリンピックの金メダリストである田口氏は、とにかく「努力の大切さ」を唱えられた。結果を出すには、人より数段練習し、それをどのくらい続けられるかにかかっていると力強く話された。講演をしていただいた時期が秋であり、受験を控えた中学部3年生にとってはとても刺激のある内容であった。

### (2) 4泊5日の修学旅行

平成17年6月7日～6月11日の4泊5日、中学部3年生94名と修学旅行を実

